

会議記録

会議名称	第4回 杉並区教育ビジョン策定委員会
日時	平成23年9月1日(木) 午後2時00分～午後3時46分
場所	西棟6階 第5・6会議室
出席者	<p>委員 永井、坂野、清水、大浦、鈴木、神谷、野口、藤川、中島、秋山、松浦、吉田、玉山</p> <p>区側 教育長、参事(特命事項担当)、教育改革担当部長、中央図書館長、庶務課長、教育人事企画課長、統括指導主事、教育改革推進課長、学校適正配置担当課長、学務課長、済美教育センター副所長、教育支援担当課長</p> <p style="text-align: right;">ほか関係職員</p>
配布資料	<ol style="list-style-type: none"> 1 東日本大震災を受けて教育振興基本計画の策定上留意すべき課題について (中央教育審議会 教育振興基本計画部会案) 2 第3回策定委員会の主な意見 3 骨子案 4 イメージ図 5 骨子案等への主な意見と対応案
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 資料説明 3 意見交換 4 今後の進め方 5 次回以降の日程等 6 閉会

○委員長 時間となりましたので、第4回教育ビジョン策定委員会を開催します。

出席状況につきまして、現時点でわかっている範囲内でお願いいたします。

○庶務課長 今日は欠席の届出はございません。

○委員長 それでは、事務局から議事録及び本日の配布資料についての説明をお願いいたします。

○庶務課長 それではご説明いたします。

まず議事録でございますけれども、第3回の議事録は8月8日付けで各委員の確認が終わっております。既にホームページに掲載してございますので、ぜひご覧いただきたいと存じます。

続きまして、今日の配布資料でございます。事前に配布いたしました、資料1でございますけれども、こちらは7月21日に第7回中央教育審議会、教育振興基本計画部会が開催されまして、そのときの資料を今日ご提供させていただいています。実はその後、8月29日に第8回の部会が開催されまして、その資料もホームページにアップされていまして、今日追加でお配りしています。内容については若干修正されているようですが、後ほどご覧いただいて、今後の議論の参考にさせていただきたいと存じます。

これを見ますと、大分今回の骨子の中に入っているフレーズも出ているようですので、ぜひご参考までお願いしたいと存じます。

次に資料の2でございます。こちらは毎回お配りしていますように、第3回の策定委員会における各委員の方々の発言の要旨でございます。これも今後の議論のご参考ということで、また、ビジョンの起草に入ります際にはこれも活用してまいりたいと思っております。

次に資料3から5でございますけれども、こちらは前回、第3回の終了時に委員長から事務局に宿題ということで残されたものでございます。8月中に委員長と職務代理、事務局で素案を作成し、各委員の方には既にお配りして、その意見をいただいております。その意見をいただいたものが資料5で後ほど、これをもとに議論をしていただきたいと思います。

なお、資料3でございますけれども、皆様方に8月にお示ししたものを、各委員からいただいた意見を参考に若干修正をさせていただきます。ご紹介しますと、「目指す人間像」のところ、「育みたい力」の3番目、ここです。もとの資料では「好奇心を高める力」というのがあったのですが、豊かな感性をもち、感動を分かち合うことによって、好奇心が高まるというものでもない、その流れの中で、この好奇心を高める力については、起草の案文の中で加えていきたいということで、今回、削除させていただきます。

また、目標達成に向けた取り組みの基本的視点の中では、こちらはすべて文言修正として、「何々の重視」ということでまとめさせていただいています。

また、それぞれの項目で重複するような表現もございましたので、それらも若干修正をさせていただきます。また、カタカナで表現しているところについても、文言を修正しております。

それから、今回でございますけれども、第4回では、骨子案を確定していただきたいということでぜひ皆さんにご意見をお願いしたいと存じます。

それでは、委員長、進行をよろしく願いいたします。

○委員長 ただいまご説明がありましたように、今日は骨子案から案の文字を取れるような段取りで進めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくご協力をお願いします。

前回、「今後10年を見据えた杉並が目指す教育」とか、あるいは「目指す人間像」について議論をしましたがけれども、これまでの議論を踏まえまして、事務局や委員の皆様からのメール等で、さまざまな宿題に対してお答えをいただきました。それで、職務代理者と私、それから事務局で、会合を持ったり、あるいは大学に来ていただいたり、メールでやり取りをしたりということで、先ほど資料3で説明のあったペーパーにまとめたという経緯がございます。

このペーパーはあらかじめ皆さん方に送られていると思いますので、ワンバイワンで少しずつ皆さん方のご意見を伺いながらいきたいと思っております。

まずは骨子案についての議論ですけれども、調整の結果、手元にある資料3と主に資料5を活用しながらご意見を承りたいと、このような感じでいきたいと思っております。

まず、「今後10年を見据えた杉並の目指す教育」、それとも「杉並が目指す教育」、どっちがいいのか、「の」かもしれませんね。次にタイトルについて、「共に支え、共に創る学びのまち・杉並」というのはどうでしょうかという意見ですけれども、皆さん方の意見を全部集約すると、ここに載っている「共に学び、共に支え、共に創る杉並の教育」というのが、最も正確に言いあらわしているだろうということで、これでいきましょうか。この案は報告文の中で取り入れる余地があれば入れていただく感じにしたいと思っておりますが、よろしゅうございますか。

それから、現行でも使われているサブタイトルの「いいまちはいい学校を育てる、学校づくりはまちづくり」というものを継続して残すという方向性で合意をいたしました。何度か私自身も申し述べましたし、皆さん方からもあったように記憶しているのですが、現在のものでもいいものは引き続きやりましょうよと。このキャッチコピーはなかなかできばえがいいものですから、これをサブに置いたままメインを生かすというような形で参りたいと思っておりますけれども、どうでしょう。

それから、今度はその下の「目指す人間像」なんですが、「育みたい力」の5、「持続可能な社会」というのがややわかりにくいというご意見がありました。もっと具体的かつわかりやすい言葉にするべきではないかというご意見です。確かにおっしゃるとおりだと思いますが、キーワードとしてはこれを生かしつつ、報告書本文の中で、これの意味するところをきちんと書き込むということでクリアしたいと思うのですが、いかがでしょうか。

○職務代理者 これは文科省の文章の中でもよく出てくる言葉なんですね。サステナブルという

英語の言葉から来ているのですが、教育関係者の中にはかなり広まってきた言葉なので、入れておいても違和感がないと思いますし、この段階で使っていたのねと、後から多分言われる言葉になると思います。

○委員長 あるいはE S D、Education for Sustainable Developmentというような表現も本文の中では使いつつ、必要であれば注釈を入れるというような形でクリアをしたいと思いますが、よろしゅうございませうか。大事な概念ですので、きちんと書き込みたいと思います。ただし、見出しではこのまま生かしておきたいということにしたいと思います。

これまでのところで特にご意見ございせんか。どうぞおっしゃってください。

○委員 これは私がわかりづらいと出したんです。そのようにしていただければと思います。

○委員長 わかりました。

○委員 先日、学校関係の4名の者たちで話し合ったときに、この最後の文章は、「育みたい力」のリード文にしたほうがすっきりするんじゃないかという話が出ました。ただ原案どおりにしたいというご意向のようなので、ちょっとこの1、2、3、4と並列な内容なのかどうかという疑問にもお答えいただく形で、後の起草の中でしていただけるといいのではないかと考えております。

○委員長 今からそれに入ろうと思っていたところなのですが、おっしゃりたい趣旨は、非常によく理解できる部分がかなりあると私も思いました。

ただ、これがよくできていると思われるのは、自分自身の持ち味、みずから学び云々という個人からスタートして、時代の変化が起きる。それから感性、それから多様な他者、それから社会というふうに、じわりと個人から周辺、周辺から社会全体に行くというふうな組み合わせで、うまくできているなという感じがしました。ですから、「持続可能」をリードにして、残り4つがそのパート1、パート2、パート3だよというようなとり方もあるのですが、この絶妙な配合の仕方も悪くはないなという感じがあるので、原案どおりでいきたいと思っているのですが、どんなものでしょうか。

○委員 今の話の続きになるのですが、この1から4までというのは、学校教育にかかわっている私たちにも、例えばコミュニケーション力とか意思決定力とか言われて結構使われている用語で、括弧づけで示すことでどういう力かというのがはっきりするような要素があるんですけども、5番というのは、そういう力が全部集約される形でこういうような力になっていくのかなという感じがします。私たちが5番を何とか力というふうに位置づけようとする、なかなか当てはまる言葉が見つかりませんでした。そういうイメージで5番というのはこの1から4の力が、まさに今先生がおっしゃったように、だんだん高まっていくところなんだろうが、総括するようなニュアンスがあるのかなと思ったもので、これをリードに持っていったというように

提案をさせていただきました。

○委員長 わかりました。どこかで申し上げたような記憶もあるのですが、教育を一枚一枚剥いでいくと、一番最後に残るのが社会性なんですよ、社会性を育むというところですよ。その意味ではだんだんと個人から周辺、それから社会全体に向かっていくというところで、今のような趣旨のことは、報告書本文で、このようにした理由というのをきちんと書き込んでいただくということで処理したいと思うのですけれども、どんなものでしょう。その辺のことはインクルーシブな社会というところでも、非常に大事な概念なものですから、すごく大事にしたいと私も思っています。

○職務代理者 ちょっといいですか、補足で。今の5番目のところですけども、1から4は確かに学校教育ベースで考えて非常にわかりやすい形になっていると思います。ただ、これはやはり教育ビジョンで学校だけに限定したものではなく、大人の方たちが、これを読んで子ども向けだよねというふうに、1から読んできてしまうとそういうニュアンスが多分出てきてしまうと思うんですよ。むしろ、大人も含めての教育ビジョンだよねということを示すためにも、ここに置いておいたほうがよいのかなと思っております。もちろん1から4と5がパラレルになりますかと言われると、違うよねという考え方も成り立ってくるかなとも思うのですが、むしろ、それぞれの方たちが教育ビジョンの中で、ここはそうだよねと何となく納得していただくのには、ここに置いておいたほうがよいのかなと思ひまして、一応案で、こういう形にさせていただいています。

○委員長 いずれにしても、報告の中ではしっかりと書き込んでいくということで、これは事務局のほうにも、私どもからお願いをしておくということでございます。よろしく願いいたします。

○職務代理者 2番目が飛んじゃいましたね、今。ここは3つ目の後ろのほうですよ。

○委員長 そうですね。ごめんなさい、1つ飛ばしてしまいました。「育みたい力」の1、3、4のすべてにかかわるところだけでも、伝える力、あるいは表現する力が入っていたらどうだろう、よいのではないかということでしたが、これも本文の中でいろいろとしっかりと書き込むということでクリアしたいと思うのですけれども、いかがでしょうか。もしご意見があったらおっしゃっていただきたいと思ひます。

それから、もう既に終わりましたが、リード文にして前の4つを云々というのは、先ほどクリアにしたところでございます。

それから、もう一つ、「育みたい力」のところを、丸々力というような形で括弧書きでもいいから入れたらどうだろうというご意見も出ているのですが、これはいささか私の個人的な意見になるのですが、社会人基礎力、人間力、…、何とか力がこの四、五年来、とてもはやっていまし

て、インパクトを失っているような傾向もあると私は思うんですけども、どうでしょうか。

○職務代理者 実は先日、某学校の校内研修でこういった丸々する力みたいなことをやってきたのですが、今、教育会の中で言葉が氾濫していて、それだけで書いてしまうと、「ああ、これね」というので逆に中身を見てもらえなくなってくる可能性が出てくるんですね。むしろ、それよりは言葉で書かれていて、どんな含みなのかというところを本文というか、説明のところを読んでいただくというような形にするためにも、丸々力という形よりは、文章でできるだけ短い形で表記しておいて、これってどんな意味合いなんですかというのを、興味を持った方が本文で読んでいただけるようにしていきたいというのが、ここの「目指す人間像」の意味づけです。

そう考えていきますと、丸々力という、ぽんぽんぽんと言葉を単語で区切ってしまうと、恐らく逆に下を読まなければ、それぞれ自由な解釈をして、それぞれで「こういう意味だよね」という形になっていってしまうと思われます。むしろ、言葉として少し膨らみがあって、中身は何という形で丁寧に読んでいただくというふうにつなげていく趣旨で、こういう形で表記をさせていただいているということになります。

○委員長 例えば何か事件が起きると、だから心の教育が必要なんだよと、短絡的に出てくる。そのようなところが、何とか力にもあるんじゃないかという気がしているものですから、先ほどの委員のご意見も踏まえて、そのようにしたいと思えます。ただ、これをしっかりと本文で書き込む際に、いろんな工夫もありそうなので、その辺について何か事務局で案はありますか。

○参事 実は、私ども幹事会でも適宜この骨子案についてはいろいろな意見を調整しているところで、同時に本当に入り口ですけども、こういった骨子であれば、どういう起草になるのかなというようなことを描き始めております。まだまだお見せできる段階ではありませんけれども、先ほど庶務課長からも話がありましたとおり、各回の議事録をきちっと踏まえて起草していきたいと思えますので、ただいまも、丸々力という、端的に言えるような言葉があったほうが良いというご意見などが出てきているようですので、本文中の中で、これは主には例えば表現力を示す言葉であるとか、文章の書き方はまだこれから練りますけれども、起草の中でそういったご意見を反映するようにして、そしてまた次回までに、起草の各段階で各委員さんにお見せしていきたいと思えますので、よろしくお願いいたします。

○委員長 ありがとうございます。よろしくお願いいたしますし、本文ができ上がったところで、それを我々に見せていただいて、意見を述べる機会というのがあると思っておりますので、そういうときにさらにまたフィードバックをさせて、ブラッシュアップをしていくという作業にしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それから、「育みたい力」の3、先ほど既に事務局側から説明がございましたけれども、感性、感動というところから、好奇心を高める力というのが、どうもつながりがよくないねというご意

見を委員の方々からちょうだいしております。これは先ほど説明がありましたように、そのご意見を反映させて、削除したいと思います。しかしながら、これはまだ本文の中で工夫できるのではないかと思います。感性の中には、感性イコール情緒だとか、アートに対する感性だとかいうふうにとられがちなのですが、疑問を持つとか、感動するとか、実は知的なところの要素がないわけではないんですね。ですが、ちょっと説明がしづらいところがありますので、これはこれで削除した上で残しておいて、本文で少し書き込むという、そんな形にしたいと思いますけれども、よろしゅうございましょうか。

○職務代理者 ここまでで「目指す人間像」が大体出てきましたので、ちょっと何かあれば。

○委員長 そうですね。最初の基本目標と「目指す人間像」について、大体の方向性をご納得いただいたと思うのですが、今までのところで、この中の文言の変更にかかわるものもあるかもしれませんけれども、こういう趣旨のことを報告書本文に書き込んでもらえるといいねというようなことも含めてご意見があったら、おっしゃっていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。そうすればライターのを務める事務局も、ヒントを得られますので、何かこの際、繰り返しでも結構ですので、重要性について、ちょっと強調しておきたいとか、あるいは補足しておきたいというのがございましたら、いかがでしょうか。

○職務代理者 バランスとすると、最初にタイトルがあって、サブタイトルがついていますよね。あと「目指す人間像」のほうで、まずおのれのことが最初に出てきて、2つ目のところで他者との関係のところが出てきます。あと「育みたい力の」ところで、これが先ほどちょっと話をした1から5、全く横に並ぶものかと言われると、「うーん」というところはあるかもしれませんけれども、自分のほうから外のほうに広がっていくという並びとすると大体こんな感じでいいんじゃないかなと思います。

ご指摘になった3番目の、豊かな感性を持ち、感動を分かち合う力のところは、事務局さんたちで言葉を入れ直したということになりますけれども、ここはやっぱり据わりが悪いよねとか、あるいは、こんな意味のところでも後で本文に入ったらいいんじゃないかというのがもしあれば出していただければと思いますが、いかがでしょうか。

○委員長 いかがでしょう。

○委員 この文言の中で、イメージとして、全てが、前へ、前へ、と行っているんですけども、振り返りというか、振り返る力というか、通ってきた道をもう一度見つめなおすじゃないですけども、とりあえず立ち止まって、振り返る力みたいなものが、この中に入れていただけたらうれしいなと思います。

○委員長 ほかにいかがでしょう。この文言というよりも、これをベースに報告書本文を書く際に、こういう思い入れの部分はぜひとも入れてもらいたいねというようなニュアンスのことがあ

るかもしれないので。

どうぞ、何でも。

○委員 並列じゃないんですが、1番から5番まで、それぞれ一つずつの文章は違う個性を出している言葉たちかなと思うので、3番の豊かな感性と4番の豊かな関係が、「豊かな」がどちらにも使われていると、すごくお手軽な言葉なのかなと思いますので、どちらかは何か変えたほうがいいのかないかと思いました。

○職務代理者 言葉が重なっているんだ。修飾語が。

何か案はありますか。これは結構案でつくり始めると難しいんです。確かに何かうまい言葉があるといいですね。多分、豊かな感性は割と使われている、定着している言葉なので、こちらは恐らく多分動かさないとします。

○委員長 関係か。

○職務代理者 関係のほうの修飾語をちょっと変えてみるか、あるいはこのままで、もし何かいいのがあったら、そこで差しかえるというような形でしょうか。

○委員 多様な他者を認めというところで、さまざまな人々と結びつくというような意味合いが入っていますから、ここに、そういういろいろな人たちとの関係づくりをしていきたいと思いますという意味合いになっていくと考えれば、最初の部分で多様な他者を認めて、その人たちと関係を結ぶということになるので、あえてこの豊かなという言葉とか、かわる言葉を入れず、ただ、関係、つなげて読むと、「多様な他者を認め、関係を結ぶ力」ではどうでしょうか。

○委員長 なるほど。多様な他者を認めれば、豊かな関係になるはずであるということですね。そこには異質を認めるということにもなるでしょうから。発展すれば、異質から学ぶというものも入ってくるはずですね。そうですね、取りますか。

○職務代理者 ただ、点の後ろが「関係を結ぶ力」だけで、ぱっと落ちるかなと思って、今。

○委員長 なるほど。

○委員 これは対等とは違うんですか。関係というのは。

○委員長 対等な関係……

○職務代理者 対等とは限らない。

○委員長 限らないですね。

○委員 それが豊かな関係。

○委員長 だから、異質を認め、異質を許容し、異質から学ぶみたいなようなニュアンスがそこにポーンと入っているのだらうと思うんですね。それが豊かというようなことになってくるのだけれども。

○職務代理者 便利な言葉といえば便利な言葉。

○委員 確かな関係。

○委員長 確かな関係。いろいろ出たほうがいい。

案1が、「豊か」を外す。案2が、「確かな」に切りかえる。

○職務代理者 後で戻りましょう。

○委員長 ちょっとここでペンディングにして、また最後に戻って議論をやり直すということにします。

○委員 すいません、今のような視点から一つ気がついたことですが、2番、「変化の時代を」というところは、ほか「何々をどうどうし」という形で読点が入り、次に育成したい「力」につなげているのに、ここだけは「変化の時代を」で切れてしまっているんです。上のほうは「みつけ」、「もち」、「認め」、「目指し、」というような句が入っているんですが、先ほど〇〇委員からお話があったように、過去にも振り返りながらという視点から、「変化の時代をとらえ、たくましく生きる心と体の力」のようにすれば、「時代の流れを踏まえで」でもいいんですが、次代をとらえながら、心と体を育てていこうというような表現になるかなと思いました。

○職務代理者 そうですね、確かにリズムでいえばそうだ。

○委員長 なるほど、ここだけが違和感があるんですね、「を」の字に。

○委員 そういうリズムを感じるんですけども。

○職務代理者 「こうだから、こうだ」と言っているのに、「こうだから」がちゃんと入っていないんですね。確かに。

○委員長 これも含めてもう一回、戻って議論をします。

それから、続いて参りましょう。目標達成に向けた取り組みの基本的視点というところなのですが、委員の方から循環というのがわかりにくいので、この表に書き込む必要はないけれども、どこかに具体例を示した上で説明が欲しいという、これはごもっともだと思います。ですので、これもまた、循環とは何だ、というようなことについて、本文で書き込んでもらうということにしたいと思いますが、よろしゅうございますか。事務局、よろしくお願ひします。

それから、これは重要なものと私も理解していますが、インクルーシブルな教育というのは、学校だけでは難しいのだと、インクルーシブルなコミュニティーができてこそ実現するものである。かわり、つながりがインクルージョンをあらわすキーワードになってほしいという、実にごもっともなご意見であると、私は個人的に認識しております。

ただ、日本語として、市民権をまだ得ていないという側面がありますし、それから、文科省でもまだ確定されていないということで、これまた本文で比較的多く書いてもらうとしまししょうか。もしインクルーシブ、あるいはインクルージョンという言葉を使うとすれば、欄外か巻末に用語解説か何かを入れながら処理していくというふうにしてもらって。注釈のやり方はもうこれはテ

クニカルなことでするので任せるとして、たくさんあるとすれば巻末、少数であれば該当ページの欄外とか、その辺の処理は、任せていけばいいのではないかというふうに思うのですが、報告書としてはどうでしょうか。今は確かに成熟し切れていない言葉かもしれないけれども、10年を見据えた場合には、恐らくこれが普通名詞になっているだろうという、僕はニュアンスを持ちながら今、話をしています。そのようなことで、この辺の重要性をきちんと認識をしているんだということが伝わるような文章にさせていただきたいというふうに思いますが、よろしゅうございますか。

○委員 ありがとうございます。ぜひそのようにお願いしたいと思います。

それで、ちょっと補足というか、蛇足かもしれませんが、結局、先ほども大人にもかかわりある教育ビジョンというふうなお話が出ましたので紹介しますが、これはある方のご指摘で、このインクルーシブルな教育というのは、学校だけでやると難しいよねと。要するに、大人や社会がお手本を見せずに、子どもにそれを押しつけるのは、それはむりな話でしょうというコメントがありましたので、ぜひそんな思いも込めていただければうれしく思います。

○委員長 ついでながらお願いがありますが、資料があつたら事務局に提供していただけるようなことでお願いをしたいと思います。ということで、このインクルーシブル、あるいはインクルージョンについては、本文の中でしっかりと書き込むということにしたいと思います。

それから、これは私が言ったのかな。教育政策は、福祉や環境や場合によっては生活や文化など、他の政策領域とリンクさせた上でも展開をしていく、総合的な政策立案の時代というようなことになっているので、そういったようなことについて、どこかで触れる必要があるのではないかというようなことを申し上げた記憶があるのですが。これはここにありますように、報告本文の最終章に、実現に向けてという、まだ仮タイトルですが、今後の大きな課題というところで述べるということで処理をしてまいりたいと思いますし、これにつきましては、私どもと事務局側が相談をしながら文案を作成して、皆さん方にお見せするという形にしたいと思います。

中央省庁の縦割りを、基礎自治体というのは総合化し、場合によってはワンストップ化するというのが本来の姿であるというふうに考えれば、このようなことも重要なことなので、実現に向けてというところあたりで書き込んでもらうというようなことでいかがでしょうか。

そういうことならば、こういうようなことも書いてもらいたいというのもあつたら、ぜひともおっしゃってください。今すぐでなくても結構です。もう一回全部振り返ってやりますので。

これで目標達成に向けた取り組みの基本的視点がクリアできたのかな。取り組みの基本的方向というのが表で見れば一番下のコーナーにあります。この中で、ご意見として「地域と共に歩む」というのがわかりにくい、地域とともに変化するのか、付属しているのか、それは何なのかという、どこかに解説が欲しいということなのですが、これまた本文でしっかり説明しましょう。

例えば、市民協働という言い方なんか随分出てまいりますし、参画型市民社会というような表現の仕方もありますし、あるいは新しい公共という概念も登場してきますし、官と公との関係性というようなテーマもこの10年来浮上しています。そういったようなことを取り込みながら、あくまで例えばですが、本文の中で書いていくというような形にしていきたいと思います。とりあえず、その見出し的なものとしてはこのままでいきたいということで、ご了承いただければ幸いですけれども、よろしゅうございましょうか。

ただ、そういう場合に何かこういう観点で書いてねというようなものがありましたら、ご発言いただければと思います。

同様に、新しい公共空間、新たな公共空間としての教育基盤が、何を意味しているのかわかりにくいというのがあります。これも、今と同じような関係性で、文章を完成させていきたいと思いますが、いかがでしょう。

それから、取り組みの基本方向の具体的な項目、これは今日配られたペーパーに入っている…

○事務局 すみません、それについては、今日の資料には入っていません。あらかじめ委員さんにお送りしたたたき台の骨子案のところでは2ページ目ですが。

○委員長 私、忘れました。すみません、見た記憶はあるのですが。

○事務局 8月に皆さんにメールでお送りした物については、入っていました。ただ、あれは流動的なものでしたし、今回も網掛けしてある取り組みの基本的な方向も含めて、推進計画との兼ね合いがありますので、細かいことについては、こちらで調整させていただければと思います。ただ、もちろん何かいろいろご意見をいただければと思いますけれども。

○委員長 これはお持ちですか、2枚目のやつ。8月にメールでいったん行っているものです。その部分で、「小中一貫教育を柱とした」というのがございますけれども、小中一貫には特別支援教育も必ず含まれる、というご意見です。その意味では、2番目には自立と社会参加、あるいは共生社会の実現を目指す特別支援教育の推進を載せてほしいというような意見で、今後10年の中で、インクルーシブル教育が一般用語になっている可能性も、おっしゃるとおりです。これも実はそれを前提にしながら、本文の中で反映をさせていきたいというふうに考えるのですが、いかがでしょうか。よろしくをお願いします。

そのほかの中にもインクルーシブルがりましたが、これは既にクリアできていると思います。あと何かありますか。

○職務代理者 それだけです、基本的には。ここのところで、細かく……

○委員長 そうですね。細かいけれども、本文で使えるようなご意見を寄せていただいた方がいらっやいます。目標達成に向けた取り組みの基本的視点のかかわり、つながりの重視の部分か、

取り組みの基本的方向の具体的な項目の中で、多様な区民、ニーズのある区民が積極的に学校や地域の活動に参加、アクセスすることができる仕組みづくりをとった意味合いのこを入れるのはどうだろうというものです。あるいは、だれでも学校や地域の活動に参加、アクセスできること、そして、ニーズがある人・困っている人には支援の提供を保障するといったような内容を盛り込むのはどうだろうというものです。障害のある人、外国人、不登校、心が不安定な人など、ニーズのある人が読んで、「あ、自分たちも地域の人なんだ」というふうに思えるような、そんな文章があるとよいというご意見がありました。これは非常に重要な内容が含まれているものですから、大事にしながら、本文で生かしてまいりたいと思います。事務局、よろしく願いをいたします。

さてこれで、7番に戻って、イメージ図というのは、ちょっと切り離して、後刻、まとめて議論をすることといたします。

コミュニティーについては、地図的に分けられた地域に根ざしたものと、共通の目的を持った集団の2つの意味合いがあるというのは、おっしゃるとおりです。時空を超えるケースがありますので、これまた処理をいたしましょう。といったような、皆さん方からいただいたご意見は、可能な限り、報告書本文の中で、書き込んでいきたいと思えます。書き込んでもらったものを我々も読んで、こういう文言をここに入れるのはいかがなものであるとか、こういう言い方をすれば、こういうような言い方のほうがはるかにいいのではないかだとか、いろいろな意見をちょうだいして、ブラッシュアップしていくということにしたいと思えますが、よろしゅうございましょうか。

それから、戻りましょう。今まで議論をしました全体について、もう一度、「そういえば、これを言い忘れた」とか、先ほど話題になった「豊か」というのをどうするかだとかについて、思いついた方はいらっしゃいませんか。あるいは補足的にこれだけは言っておきたいとか、もっと言えば、今から報告書を書いてもらう際に、ぜひともこういう意を酌んでもらいたいであるとか、こういうようなことを入れてもらいたいとかというようなことがございますれば、事務局にとっても大きなヒントになりますので、おっしゃっていただきたいのですが。

○参事 委員長、すみません、今のところを補足しますけれども、取り組みの基本的な方向、前回、各委員にメールでお配りしたときに実はここに吹き出しが入りまして、これはこれから行政がつくるビジョンの推進計画、具体のいろいろな計画、細かなものまで含んだものとの接合点になりますので、この網掛けの部分までを骨子として押さえていただければ、先ほどのその他でいただいた意見は推進計画の中身にも当然書き込むべきものにとらえますし、それから、ビジョンの起草の本文にも、先ほど事務局から話があったとおりに加えていきたいと思えます。

それから、先ほど「豊か」、「豊か」でだぶっているところ、2番目の「豊か」の関係をどう

するかということで、今、委員さんの意見がこれから出てくると思うんですけども、実はこのあたりを事務局、あるいは幹事の中で、いろいろ意見交換した中で、ちょっとひもといて見ていたんですけども、この経過の中では、「豊か」の部分为例えば「互いに尊重し合える関係」とか、「互いに理解し合う関係」とか、我々の議論の中では、そのような案も見えたり隠れたりというような経緯がございました。議論の参考になればと思ってご紹介します。

○職務代理者 2番目のところを先にやってしまいませんか。これを「とらえ」にするのか、「見据え」にするのか、何か言葉を入れるのか、そのほうが早いと思います。

○委員長 今、「豊か」に関連しては、第3、第4案まで出ましたけれども、その前に、「目指す人間像」の「育みたい力」、2の「変化の時代をとらえ、たくましく生きる力」、「心と体の力」というものは、「とらえ」でいきましょうか。事務局、何かグッドアイデアありますか。

○参事 非常にいい意見だと思います。

○委員長 文章構成上、これで合うということになりますので、ちょっと長めになるかもしれませんが、「とらえ」でいきましょう。豊かについては、互いに尊重、互いに理解、取り扱う、もう一つが確かな関係、確かか、なるほど……これは1点集中しても、いいアイデアは浮かばないんですよ、いったん離れて、一晩寝ると出てきたりするんですよ。ですので、これをちょっと、私どもに預けてもらえませんか。考えますので。

○委員 いい案ではないのですが、今日いただいた追加の資料を見ていたところ、3ページから4ページにかけて、きずなづくりとコミュニティーの再構築というリードで始まっている4ページ目の文章の、上から4行目に「協働」という言葉が出てきています。また、文部科学省から出た「キャリア教育」の冊子の中で、「多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聞いて、自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分のおかれている状況を受けとめ、役割を果たしつつ、他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成する力が必要である」と書いてあります。

先ほど出てきた「互いに尊重、互いに理解」というところでとどまっていけないのではないかと私は思うのです。この場合は、多様な他者を認めて、もっと杉並の人たちにはお互いに協力し合い、また、協働し合って、豊かな社会をつくっていきましょうという思いがあると思うので、単に「互いに尊重、互いに理解」というところで落ちつかせておくのは少々物足りないと感じます。「多様な他者を認め、協力・協働していく力」、あるいは「協働していく力」という文言を入れてみてはどうかと考えます。

○委員長 そうすると、その次の持続可能な社会というところに、スムーズにつながりますね。

○委員 はい。

○委員長 協力・協働か、あるいは協働かというので使ったらどうか。じゃあこれで5つ目が出

ましたので、ちょっと預かっていいですか。とてもいいアイデアをいただきましたので、お預かりをして、詰めます。それで皆さんにお知らせをするということといたしますので、この辺は委員長、職務代理者にゆだねるということでご納得いただければと思うんですが、よろしいでしょうか。

ほかに全体を通して何か言っておきたいことはありますか。

○委員 ごめんなさい、せっかくこれで落ちつこうというところで、でも、ちょっとやっぱり「育みたい力」の2の、変化の時代というのがどうしてもちょっと引っかかっているんですね。時代の変化ではない、変化の時代なんでしょうけれども。何か引っかかるんですね。変化を前提としたというようなところがどうしても考え、感じてしまうので。

○委員長 これは、96年、今から15年前、中教審の21世紀の我が国を……

○職務代理 創造するっていうものですか。

○委員長 あの答申の中で、先行き不透明で、確実なのは変化の時代であるというようなことを言い始めたあたりからずっと来ている概念で、変化の時代というのは、中教審答申、文部科学省を含めて、至るところで使われている言葉ではあるんです。ですので、私たちみたいに日ごろそういう言葉に接している者としては、余り違和感がないのですが、確かにそうかもしれませんね。要するに、いかに時代が変化しようとも、自分で課題を見つけ、みずから学び、みずから考え、主体的に判断し、行動し、よりよく課題を解決していく力、生きる力ですけれども、そのベースになったのは中教審答申で、そういう変化の時代というような言い方をしているんですよ。

○委員 イメージとしても、すごく僕もその言葉が好きなんですけれども、僕らの時代はもしかすると昭和の復興時代を思い浮かべたりするんですね、何となく。それで、先ほどの意見で言わせていただきますと、立ちどまって振り返るという言葉がとらえているものがやっぱりそこに入り切れないような気がしているんですね。変化の時代というものが頭に来ってしまうと。

○委員長 むしろ国際化、情報化を含めて、もう先が読めなくなっている時代、そうなるべくと、みずからが考えるしかないねというようなことを言っているの、これはそのまま残しておいて、それこそ変化の時代というのはどういうことを意味するのかということを書いてもらうというのは、どうでしょう。あるいはまた、かぎ括弧、変化の時代、かぎ括弧戻すにしてもいいかもしれませんね。

○職務代理者 いや、バランスが崩れる。

○委員長 崩れる。はい、そうですね。

○職務代理者 1個つけてしまうと、あちこちにつけなければいけないので。例えば、持続可能な社会もやっぱりかぎ括弧が必要になるんですよ。

○委員長 そうですね。

○委員 「変化の時代」なのですが、私は、この震災を受けて、今、このときにビジョンを考えるとということからスタートしたところに戻って考えまして、何が起こってもとにかくたくましく生き抜く力という、時代の流れだけではなくて、今、この震災ですとか、またこれから先、そういうことが起こったときにもというのも含めての変化というふうにとらえて、そのこともきっとここに入っているのかなと思っっているのですが。

○職務代理者 入れてもらおう。

○委員長 それも入れましょう、事務局、テイクノートしてください。

○職務代理者 ほかにございませんでしょうか。

○委員 あととても初歩的なことなのかもしれないんですけども、「共に学び、共に支え、共に創る」という、この「共に」というのが、一体だれとだれを指している「共に」なのという意見が。ちょっと青少年委員の協議会で、前回に委員長から宿題がありました、あの表の部分の、我々は主に地域で活動しているものですから、一番右下の地域ですとか、ここのかかわりの部分を主にピックアップして、そこについてグループ討論をしてみたんです。たくさん意見が出てきたんですけども、その中の一つに、この「共に」という部分が一体だれとだれを指しているのかという意見がありまして。そもそもこの教育ビジョンというのが一体だれが読んで、だれがそれを実践していくのかなというところに、立ち戻ったときに、これは学校がやるのか、子どもたちに向けての言葉なのとか、では大人はどうなのとか。我々は話し合ってきました、子どもたちだけにに向けてじゃないよと、学校がやることだけを言っているんじゃないよということは理解はできてきているつもりではおりますが、一般の方たちが読まれた場合に、教育ってこれは学校関係のことで、地域の方たちは私たちに関係あることというふうには、やはりなかなかとらえづらと思いますので、この単純に「共に」といったこと、これは本当に物すごく広い意味で、あなたも、あなたも、みんな入っているんですよ、ここにということの一つ、どこかにやはり説明を入れておいてあげていただけると、教育関係者だけが見るものではないんだよということアピールしていただけると一ついいのかなと思いますけれども。

○委員長 はい。趣旨を生かせるようにしましょう。ほかにございませんでしょうか。

これで10年後を見据えた目標ができたわけですが、これだけではただの絵にかいたもちになる可能性がないわけではない。つまり、目標を設定した上で、手段の選択が必要になってくるのです。その手段の選択を経て実行に移す。実行に移した後、評価をする。結果と目標を比べれば、必然的に評価ができる。そのことが次なるプランにつながっていくという、PDCAサイクル、マネジメントサイクルにつながっていくようにならなければいけないとかねがね思っております。そのため、どうしてもここから先はどうするのだというところに、僕は非常に関心が強く、どのような手段を使ってどう展開していくんだということに心を配りながら、事務局にはペーパーを

つくっていただきたいと思ひますし、とりわけ今後の方向というところあたりにこの辺のことを、入れていただければと思ひます。

それから、ここに書かれていることをとても大事にしていくためには、さまざまなスタイルのコーディネーションシステムの確立が不可欠であるというふうに思ひます。そのコーディネーションシステムの確立というのを、口で言うとは簡単なのですが、なかなかこれは難しいんですね。世話好きの人に「あなた頼むよ」と言っていれば済むという話ではないものですから、プロフェッショナルな素養も含めて、いろんなことが必要になってくるという、リアルな手段、方法についても、今後に向けてというところあたりで事務局をお願いをしたいと思います。

ということで、とりあえず預かり分を除きまして、クリアできたと思ひます。

これで一応骨子案の案という文字が1点留保した上で、クリアできたということでございます。そこで今からちょっと議論したいのは、この新教育ビジョンの内容を区民の人たちにわかりやすく示して、あるいは区民とともに共有できるような方法はないかということで、イメージ図を事務局が一生懸命苦労してつくっていますが、完璧な正確を期するというのは不可能なこととしても、ちょっとイメージ図を検討したいと思ひます。その前に、この教育ビジョンに関連して、私どもがこれで4回目になりますけれども、色々議論をして、方向性を打ち出し、それが骨子となりました。この言ってみれば、杉並新教育ビジョンというのは、今後10年間の杉並の目指す教育の根幹部分をなすものであるというふうに思ひます。

あるいはまた、杉並区の教育計画の、基幹部分であるというようなものと位置づけられるだろうと個人的にも思ひます。このあたりの位置づけについて、どなたか、とりわけ教育委員会から参加していただいている方にお話を賜ればと思ひますが、いかがでしょう。

○委員 では私から。ちょうど今お尋ねがございましたが、教育委員会としてこのビジョンをどういうふう位置づけていくのか、それからまた、この紙で書かれたものが具体的にどのように実行させていくのかというようなことのお尋ねといひましようか、そういったものがございます。この現在使っております教育ビジョンですが、これは平成16年度に作成をいたしました。そのときに、このビジョンの中には、杉並の目指す教育、それから、教育改革の方針を示すとしておりまして、区の重点的に取り組む施策の方向性を示しております。

したがいまして、ここに書かれていた、今の教育ビジョンというのは、我々としては最高位の計画というふうな位置づけでやってきております。

ただ、平成18年度に、これとは別に教育基本条例を策定しようという動きがございました。しかし、教育の中身を条例で規定するということについては、かなりいろんな議論がございまして、条例ではなくもう少しソフトに憲章というようなものにしてみたらどうかというような話に変わってきております。まだこれはまとめられてはおりません。いろいろな議論がございまして、教

育の中にもです。といいますのは、この憲章の性格です。これは、今お尋ねにございました教育委員会の中の最高位の、言ってみれば計画にはないんですが、考え方なのかどうかというようなこともございまして、時代がこういった教育の普遍的な理念を明らかににして、区民の納得と共感の上に地域ぐるみで教育を進めていこうと、そのよりどころとして考えられていたものでございます。

ただ、もう既に平成16年には、この教育ビジョンが策定をされているということと、それから、また教育基本法の前文、それから第1章に、言ってみれば教育の目的及び理念、もう既に理念がうたわれているところでございます。そういったようなところから、改めて屋上に屋根をかけるようなことというのはいかがなものかというような議論もございまして、なかなか今日まで目の見ていないというような状態でございます。

今日、骨子ということで、あらかじめ輪郭がまとまったというふうに受けとめておりますが、この新教育ビジョンは、区民とともに教育を地域ぐるみで進めていこうという考えになっていると理解をしております。

今後の杉並の目指す教育の方針として、これを我々事務局は十分に尊重すべきというふうに考えております。こういったような議論を今後教育委員会の中でお話をするわけでございますが、もう新教育ビジョンがこういうふうにとままりつつある段階において、あえて教育憲章を定める必要性があるのかどうか、そこら辺につきましては、教育委員会の中で議論をし、基本的にはこの考え方を尊重していきたいというふうに考えております。

○委員長 わかりました。私どもが今まで4回にわたり、議論を積み重ねた結果が、杉並の教育を引っ張っていく核の部分であるというような位置づけということだろうと思います。ということで、これから先ほど予告しましたイメージ図、わかりやすく区民と共有できるようなイメージ図につきまして、少し皆さんのご意見をいただきたいと思います。みんなの力で新教育ビジョンを推進するためといったような感じでしょうか。今、2つばかりペーパーがあると思うのですが、1つは夕べから今朝にかけてつくったものなんですよ。ずっと長い間やっていて、完成したのが今日なので。

1つは、ライフステージやら就学前教育から社会人までを描きつつ、教育基盤、かかわり、つながりについての絵ですね。2つのイメージ図を場合によっては両方使うかもしれない。場合によると1本化したほうがいいのかも。あるいは縦型のものと横型のものと2つ用意したほうがいいのかも。いろいろな意見があると思います。いずれにしても、皆さん方のアイデアが欲しいですね。これは、ブレインストーミングのほうがいいヒントが出る可能性が高いですね。今、ちょっと2つのペーパーをにらんでいただきながら、ここはこうしたほうがいいのか、ここにこれをぽんっと入れると全然違って見えるねだとか、ブレインストー

ミングのワークショップ形式で、皆さん方の意見を求めたいと思いますが、いかがでしょうか。

○職務代理 これはいいですか、前回出ていた、7番目のところです。イメージ図のところの7のところ、その次のページ、これですね。イメージ図について。

○委員長 例の骨子案への主な意見という横長のペーパーの一番最後、7にイメージ図についてというのに皆さん方のご意見がありますが、循環は何をあらわしているのか、何が循環しているのかがわかるといいのではないかというご意見だとか、学校を核とした新しいコミュニティー形成とは、やはり学校が中心になるのだろうかという意見。これは学校の周りに地域があるのか、地域の中に学校があるのかという考え方の差が出てくるのですが、コミュニティーについては、先ほど地図で区分けされるものとそうでないものがあるということで、このような言葉のご意見もありました。それに加えて、この図をこうするとわかりやすくなるだとか、今の図に何か放り込むとよくなるであるとかいうようなものがあつたら、手を挙げて、場合によっては前に出ていただいて、書いてもらうという方式を考えたいと思うんですが。

○委員 この7番のイメージ図についてのコメントのところは、この間、校長同士で集まったときに、こうかななんて思いながら相談した部分を書かせていただいたので、その経緯を私どもでも説明させていただきたいと思います。その間にいい案を考えていただければと思います。

「いいまちは学校を育てる、学校づくりはまちづくり」のその「学校づくり」ということは、前の教育ビジョンから言われていたところなんです。私たち学校関係者は、学校づくりという、まず考えるのは、学校の教育活動の充実、学校の組織ですとか運営ですとか、そういったものを確固たるものとして、いい教師がいい授業を展開して、教育活動を充実させていくというようなことが第一的になります。もちろん、それはそうだろうと思うんですけども、杉並区の学校づくりはそれだけではありません。学校支援本部や学校によってはコミュニティースクールとして、さまざまな地域の方々との連携の上で成り立っているという状況がある。そういう認識はもちろんすべての校長も持っているわけなんですけれども、その学校づくりがまちづくりになるということに関しては、私は個人的にはいまひとつ吹っ切れないものがあつたんですね。連携をしながら学校をつくっていくということは、地域の方々にも教育に参画していただいて、それはそれで一つのまちづくりにつながっている要素はあるのかもしれないけれども、もっと具体的にその学校づくりがまちづくりになるということの証というか、そういう確証みたいなものがないのかなということを考えていたんです。

前回の会議のときに、コミュニティーの話があつて、私たちが例えば町会の区切りですとか、それから、区のいろいろな自治会の区切りですとか、学校のそれこそ区切り、小学校と中学校でも区分けがちょっと違っていたりするところがあつて、そういう地域的な区切りの中でさまざまなコミュニティーが仕切られているものですから、どうしてもその地域的な制約の中でのコミュ

ニティーというイメージが定着していたということもあるんです。ですから、学校という新しい公共の施設を舞台として、そこに集う人たちがまたそこでコミュニティをつくっていくんだ、それが新しいコミュニティとしての考え方になるんだという考え方をなかなか持てなかった。そこで、この学校づくりがまちづくりにつながるという視点が、そんな考え方が学校にあれば理解できるんじゃないかなというふうなところに気がついたというか、思い至ったんですね。さまざまな東北の被災地での避難所でのコミュニティの自然発生の仕方ですとか、もちろん意図的なものもあるんですが、そういうのを伺う機会もあって、やはり、その場所に集うというコミュニティというものが、広がりをもってまちをつくっていく、その核として、学校ばかりではなく、区民センターとか児童館といった公共の施設があるんだという、まさにこの学校づくりはまちづくりにつながるというのが、何かすごく自分自身としてはわかってきたかなという感じがするんです。もちろんやり方は簡単ではないんですが。

そういった中で、この図を見ると、最初のほうのイメージは、学校を中心にさまざまな機関がかかわっていただいている、どちらかというと、これは私がお話した前の段階のような気がするんですね。もっと学校というエリアにこういった人たちもかかわりながら、新しいそういうコミュニティがそこに浮上してくる、そういうイメージになるのかなという思いがしました。

それからもう一つには、この周りにかかわっている方々というのは、一つの学校だけにかかわっているわけではないと思います。いわゆる学校というエリアは、昔あった亀の子の黒と白のサッカーボールに例えれば五角形の黒い部分に当たるんだらうと、その周りを取り囲んでいる六角形の部分というのは、こっちの学校にも共有するし、こちらの学校にもかかわっていく、そういうようなネットワークになるのかなと、そんなような話し合いがありました。

その学校のところを核として、学校を舞台としてつくられてくるもの、そして、学校の横同士のつながりも表現しているイメージ図としてはこんな感じかなと思ったので、イメージ図についてのところにも書かせていただきました。

○委員長 つまり、この図をもう一步突き抜ける何かというのが欲しいというニュアンスですね。どうぞ、お願いします。

○職務代理者 これは②番は私が書いたのか、ほかの方なのかな、私の考えにすごく近いんですけども、いわゆる学校を核にというと、先ほど〇〇委員がおっしゃったように、じゃあ学校にかかわっていない人は、「私たちは直接関係ないよね」みたいな感じがどうしても出てきてしまうんですね。学校を真ん中にするのはできれば避けたいというのが私の一つの考えです。

あと今ちょうど〇〇委員からもご意見がありましたけれども、地域あるいは学校を考えたときに、いわゆる人的なネットワークということをまずベースで考える必要がどうしても出てくるんですね。つまり、学校なら学校という場所だとか、機関ということだけではないんですよ。必ず

その中に、そこにかかわっている人のネットワークがあるわけですね。そのネットワークをうまく表現できるというというのが私の思いなんです。そのネットワークをどう書けるかといったときに、ちょうど今、例えば学校は1つじゃなくて、幾つもありますよというご説明もありましたけれども、例えばバージョン1の資料4のほうです。バージョン1の、例えば学校の周りにはいろいろな方たちがおられますけれども、上のほうには保護者と書いてあります。でもその方は実は同時に下のほうの区民でもあるんですね。ということになってくると、ではどんな形のネットワークになっているかということは何かうまく違った形で描けないかなというので、いわゆるそれぞれの人の時間軸、つまり、子どもから大人になって、学校を出た後に、どんな感じかというような形の時間軸がちょっと入ると、少し描きやすくなるんじゃないかと思います。

同じ人の中でも、例えば親として学校とかかわるといふかかわり方もあるでしょうし、同時にその人でも、例えばほかの学校なら学校でボランティアもやっているかもしれない。さらには、いわゆる就学前のところの何かの指導者になっているかもしれない。いろんな接続、ネットワークコミュニケーションのとり方があるわけですね。そういったものが何かうまくやっていて、自分だったらどこつながってネットワークになっていくんだなということが見えてくると、自分はそのために、あるいはこことつながりたいな、ではどうしたらいいのだろうということが多分見えてくるというか、意識化されてくるのだろうと思うんですね。そんなことをうまく一般の方たちに、ぱっと見て、「私はこことつながりたい」というのがイメージできるような図が出てくるといいなと考えています。

考えてはいるのですが、自分でこういった図をつくれませんので、事務局の方をお願いしているのですが、それで、多分バージョン2のほうのところ、あの左のほうに、いわゆる人の成長に従ってというところがちょっと入ってきたと思うのですが、これで例えば、それぞれの時代でという、これだけでもまた実はかなり難しいんですよ。恐らく一面というか、いわゆる二次元の世界を描くのはかなり難しい。それで、ちょっとバージョン2のほうも何となく循環型を意識しているのだけれども、どんなアイデアだったら、今お話ししているようなことが、多くの方たちに伝わりやすいのかというアイデアをいただくとありがたいなと思います。

○委員 この生涯学習で、幼児から学齢期、社会人というふうに伸びていく上へのベクトルは、例えば区民の丸でありますけれども、その丸がそのままこういうベクトルを持って、上に上がっている要素になっているのかなとお話を伺って思いました。就学前のときには、そのベクトルから子供園ですとか、そういうところにまたかかわりが出て、そして学齢期には、学校とのそこにかかわりが出て、それが大人になれば、子供園の先生になる人もいるでしょうし、ボランティアという形で戻ってくる場合もあるでしょうし、幾重にも分かれて、ここの地域に還元していくというような型なのかなという感じがしました。

そうなる、区民中心の見方ですから、新しい公共としての幼稚園ですとか学校、それから、家庭とか区民というのが同じ円の中に入っていると、位置づけがわかりにくくなってしまいうかなという感じもしました。

○委員長 さあ、どうですか、これは余り深刻に考えるとだめですよ。

○職務代理者 ひらめきでいいですから、ひらめきで。考え込んじゃうと出てこなくなるから。

ここにないパターンをすみません、提案していいですか。

○委員長 お願いします。

○職務代理者 学校とかでよくつくる緊急とかの体系図で、ダブルスパイラルみたいな感じの図があるんですね。最初は下から始まるんですけども、だんだんと成長していくに従って、こんなところがかかわってきます、みたいなことを描く図の書き方があります。何か今、ベクトルという言葉をちょうど〇〇委員がおっしゃいましたけれども、そうした形の何か方向性みたいなことが出るような図のほうがおもしろいのかなと思って、今、お話を伺っていて感じました。

いわゆるベクトル系で、最初ここから例えば生まれたときに始まっていて、だんだんかかわるところが人によって違うんだけど、だんだんこんな感じで伝わっていくよね、つながっていくよね、みたいなという形のことが絵に出るとおもしろいかなというのが一つです。

〇〇委員、何かありませんか。

○委員 話を聞いていても、何かキャリア教育の発想にすごく近づいているのかなと、すみません、余りアイデアはわからないんですけども。

○委員長 どうですか。

○委員 このイメージ図をつくるのに何を中心に置いてその図を書くかという視点を考えると、どうしても私たちは、新しい公共の地域なり、場所を中心に描きがちです。けれども、やはり中心に入ってくるのは子どもであり、大人であり、区民だとして、その区民をどう育てるかという視点で考えれば、区民を中心とする同心円という形で、学校ですとか、そういったものが存在するというイメージでもいいのかなという気がします。

○職務代理者 こんな感じ。

○委員 その周りに、その年代に応じたかわりがあり、その人たちがまた戻ってくるような図なんではなかね。

○委員長 なるほど。これは縦型かつ循環型も放り込めるような、ライフステージ型、それから循環型を放り込めるような。

○委員 ただ、そのコミュニティという概念が、このイメージ図だとどこに位置するかというのがちょっとわかりませんが。いわゆる生涯学習というか、そういった循環というのをあらわすのであれば、こういう形のほうがあらわしやすいかもしれないなど。

○委員長 イメージ図は、1つでなければいけないというものでもないですよ、実を言うと。こういうふうなステージで見るものと、平面的に見るものと、2枚用意しても構わないわけで。

○教育長 輪切りにする、太い柱に。輪切りに。時間軸。そういう感じで、断面に。

○職務代理者 なるほど、断面図で見せるか。

○委員長 これも限界はあることはあるんですけども、子どもが真ん中にいて、ここに学校がある。家庭がある。ここに地域。こういうふうな行政がある。全部重なっています。ともに支え、共につくるというのが。しかし、子どもが真ん中にいると、子どもだけかということになりかねないので、弱点が実はないわけではない。

○職務代理者 ただ、学齢期で例えばこれで、あと例えばそこで抜けているのをぱっと思いついたのと言うと、ほかの子ども、あるいは先輩、後輩みたいな。

○委員 輪切りにした一部がこういうふうになっているということでもいいんじゃないですか。

○委員長 だから、例えばコーディネーションシステムがあれば、学校、地域、子どもでこうやると、地域協力コーディネーションシステム。それから、これをこうやるというと、学校支援のための、コーディネーションシステム。というのもありかなとも思ったりしたんですよ。つまり、学校という拠点を真ん中に置くとか、脇に置くとか何かするというと、学校中心主義かとなりかねないので、学校が全部を支えているという図面も変だなとなるわけです。だから、みんな学びの体系に入ってくるんじゃないかと、もちろん子どもを挟んで行政と学校の協働だって当然、下支えという言い方もできますけれども、共同作業があり得るといような図面のやり方もなくはない。

○職務代理者 実は、こういう形のやつで、昔、神奈川県の子供協議会か何かをやっていたときに、やっぱり就学前と小学校、中学校みたいなそんな図をつくったような記憶があるんですけども、それで例えば、それぞれの段階でこんなのがというのをそれぞれ出して行って、自分だったらじゃあこんな感じとかと、逆に自分の絵を描いてもらうようなことというのは実は結構いいことかもしれないなという気がしますね。

○委員 それは真ん中の子どもというところはどんどん変わっていくわけですよ。それによって周りも変わってくる。

○職務代理者 変わります。幼稚園に入る前とか、幼稚園に入った後、小学校、中学校という形で変わってくる。

○委員 大人の場合にはワークシートで何がかかわってくるか、書かせてもいいかもしれません。

○職務代理者 自分の関係を書かせてみるとかね。

○委員 何かある意味、〇〇委員みたいな若い大学生がどういうところに入るのかなというのがちょっと今、気になりました。

意識としてはどう。

○委員 私は別として、行政とのかかわりがあるかというところ……

○職務代理者 余りないですね。

○委員 ないし、家ともね。

○委員 1人で住んでいらっしゃる学生の人たちも……

○委員 そう。ひとり暮らしの人はかかわりもないですし、地域ともなかなかつき合えない人はつき合えないというところなんですよ。

○委員長 それは実感としてという意味ですよ。

○委員 そういうイメージがありますね。家庭から通っている子どもたちは家庭に入っていると思うんですけども、やっぱり〇〇委員のように大学に通う……

○職務代理者 親元を離れているとね。

○委員 そう。でも、結構いると思うんですよ。そういう方たちをどう巻き込んでいけばいいのかなと。

○職務代理者 逆に、大学生などを、例えばこんな関係もあるんじゃないというのを一つ描いてあげればいい。それを自分でもとにして描いてみてという形になっていくと、結構違ってこないかな。

○委員 そうですね。

○委員 こういうかかわりもできるよ、こんなところでこういうかかわりもできるんだよというのが逆にモデルとして提出されていると、ああ、じゃあこういうところでもっと地域とかかわっていけばいいんだとか、そういうのがちょっと見えてくるかなと。本当に仕事と仕事仲間としかかかわらない人とかもいると思うので、大学の中の仲間としかかかわらない人もいると思うので、そういう意味ではいい例になって、参考になると思います。

○委員 すべての人が多分真ん中に位置するわけではないと思うんですよ。

○委員長 何を。

○委員 すべての人が。要するに区民じゃない人も当然いるわけです。だけれどもこの区にかかわっているという人であるわけです。だから、そういう人は側面にもしかしたら来るかもしれない。企業もそうですね。ただ、かかわりの度合いで、中心に近い所に位置づくことはあるかもしれません。

○委員 企業の方とかですよ。

○委員 企業の方などもそうかもしれません。でも、この杉並という地域と自分が何かしらのかかわりがある以上、こんなかかわり方で、教育にかかわれるんだよというふうな図にはなるんじゃないかなと思いますけれども。

○委員 この真ん中に入ると、直接のかかわりが見えない人でも、例えば学生さんであれば、小

学校にボランティアで行っているというケースもありますよね。それから、行政のほうでは、社会教育のいろいろなボランティアの派遣とかそういうところに応募している人がいるなんていうケースも改めて認識することができるかもしれない。全く無関係で、杉並区のアパートに一人で暮らしているという人もいることはいるのでしょうけれども。

前にちょっとお話ししたときに、やっぱりその大学生の世代の人、場合によっては高校生世代の人がどうしてもブランクになってしまうという話がありましたよね。そういった人たちがこの教育ビジョンを見たときに、この輪切りのワークシートをやってみて、全然かかわりがないか、あるいは、それでもまだこういうかかわりがあるのかということを確認できるというのはちょっとおもしろいかもしれませんね。

○委員長 例としてね、就学前、小中学校。

○職務代理者 冊子の中に、自分だったらこうなりますみたいなところでページをつくっておく。

○委員長 できそうですか。

○委員 先ほどイメージ図が一つでなくてもいいという話がありました。やはり学校ですとか、公共施設の上に集まってくる、雲がぼっかり浮いたじゃないですけども、そういうふうにしてできたネットワーク、コミュニティーという、いわゆる新しい公共と言われるものの必要性が震災以後、非常に問われている中で、そういった役割意識を学校も地域センターも持つためにも、そんなイメージ図も欲しいなと思いますね。

○職務代理者 ということは、人だけじゃなくて、さっき言ったような感じで言うと、機関なら機関の縦棒を中心にしたイメージ図みたいな感じですよ。

○委員 やっぱり例えば校長会で、こういうイメージだよとを説明するときに、一人の子が中心となっている成長過程であると、学校はここでかかわればいいんだという視点でしか見ないと思うんですね。ところがやはり、いろいろな公共施設があるけれども、学校という一つの震災救援所にもなっている中心となるべく施設の中でこそ、わき上がる雲を、今つくる時代なんだということを確認していく必要があると思います。そのためにもそういう具体材があるといいなと思います。

○職務代理者 何枚ぐらいになりますかね、そうしたら。

○委員長 たくさんあるのもね。何枚から。

これは実は、今日結論を得るという話の段取りではありません。まだまだ時間がありますので、次は11月ですし、さらに6回目もあるんですよ。最終的には最後のペーパー、報告書全文の中に落とし込まれるという話ですので、今回、次回に完成させなければならぬというものではないわけで、皆様のご意見を伺いながら、つくっていつてもらって、ということになります。

それから同時に、先ほどちょっと申し上げましたが、完璧にこの骨子の中身を全部正確に放り

込める図というのはきっとできないと思います。

○職務代理者 青少年中心とかでつくってみる……

○委員 小学生は、この木のこれは多分小学生はわかりやすいですね。

○職務代理者 わかりやすい。

○委員 大地があって、そこから育っていくというそこに水をあげたり、光が当たったり。

○委員長 確かに栄養を与えて、大きくなっていく。落ちたものが循環する。

○職務代理者 子ども向けにするのだったら、ちょっとこれはさらに何か工夫が。何をメインでとらえますかね。

○委員 やっぱり杉並人という。

○委員 学校とか区民とかの枠の中に、とりあえず杉並に住んでいるあらゆる人たちみたいな枠を1つ入れないと、私はどこにもかかわれないという先ほどの……

○委員長 これはここで結論は出ません。出てきた意見をどなたかの頭の中で、イメージ化して、何かつくっていただくということで、次回に提示をしていただきますが、それはまだ最終のものではないかもしれません。

ただし、お願いといいたいでしょうか、宿題といいたいでしょうか、この手のことはビールか何かを飲むときにふっと浮かんできたりするものです。あるいは寝ている間にぽっと浮かんできたりするようなこともあり得る、あるいは人とわーわーしゃべっている間に、「あっ、あれっ」というのがあるかもしれませんので、何か浮かんだら、事務局にメール、ファックス、電話等々の手段で、こんなのどうだろうというようなことをご提案していただければ大変にうれしいです。あまり生まじめに考えないで、おもしろそうなものがあればあるほどいいので、それに触発されて、「あっ、言われてみれば」なんていうような感じになると、一番うれしいということになると思いますので、それを一つ皆さん方をお願いをしておきたいと思います。

全体を通して、ほかにご意見であるとか、今後の報告書全文の起草、執筆に向けて、注文や要望しておきたいというようなことがございますれば、おっしゃっていただきたいですし、今なければ、これまたメールやファックスで寄せていただくことも可能であるということにしておきたいと思います。

それでは、ちょっと振り返りますが、お手元の新教育ビジョンの骨子案を、預かり部分1か所を除きまして、案を外して骨子とさせていただきますと思いますが、よろしゅうございますか。ペンディングになっている部分は、できるだけ早くお知らせすることができれば、そのほうがいいと思いますので、事務局、それでよろしいですかね。

○庶務課長 はい。

○委員長 ということで、4回の議論で、いいところまで来たと思います。

それでは、今後の進め方についてですけれども、事務局から段取りを決めて説明していただきましょうか。お願いいたします。

○庶務課長 資料を今、配らせていただきたいと思います。

今、ペンディングが1か所ございますけれども、これは早急に解決をさせていただき、これをもとに、いよいよ起草に入りたいと思っております。

起草につきましては、事務局中心でやらせていただきますけれども、当然、委員長、職務代理と連携をとってやっていきます。ある程度形が整いますれば、各委員の皆様方にお送りをして、意見をいただいて、またそれをたたいていくという形にしたいと存じます。今、配らせていただいた資料は、構成の案でございます。オーソドックスなタイプで今回お示しをしてございますけれども、この案につきましても、ご意見いただければ、委員長等と話し合いをしながらやっていきたいと思っております。

今回、イメージ図もご意見をいただきたいと思いますけれども、一応、起草原案が出た段階で、パブリックコメントにかけますので、このイメージ図についても確定しないまでも、ある程度の絵姿をお示しして、区民の方の意見を広く求めていきたいと思っております。

ですので、イメージ図につきましては締め切りはございませんけれども、思い立ったらすぐ事務局のほうにぜひ。できれば絵姿の形でいただければありがたいと思っております。

今後の進め方は以上でございますけれども、次回の日程もご報告してよろしいですか。

○委員長 お願いします。

○庶務課長 次回の日程でございますけれども、第5回は、11月11日金曜日、午後2時からです。この日に残念ながら参加できないというふうなお申し出もございますので、できますれば、事前にご意見をいただければ、そのご意見を事務局で集約しまして、その意見を含めて原案を作成したいと考えています。今後の予定については、以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

全体構成案、これは言ってみれば、目次がわりのようなものと理解をしてもよろしいと思うのですが、私が見たところ、おおむねこんな段取りかなと思います。むしろ問題は中身なので、きちんと書いていただくということになりますし、同時に職務代理者や私も折に触れてコミットメントをしながら、逐次、皆さん方のご意見もいただくということにします。この構成そのものはこれでいいと思うのですが、どうでしょうか。暫定的にこれで書いていただくことにしたいと思いますが、よろしゅうございますか。

それでは、この構成案の今後、それから次回日程等々は既に説明をいただいておりますので、ほかにごございますか、補足して事務局のほうでは。

○参事 先ほど、委員長が最後にイメージ案についての今後の宿題的なお話もいただいたところ

ですけれども、本当にアイデアでも結構です。いろいろお出しただけだと思います。幹事会、事務局の中で今出ているのは、今日はたたき台として2枚お示しましたが、例えば、今までの委員長、各委員のご意見をひもといってみますと、例えば家庭あるいは保護者であったり、地域の商店主であったり、学校であったり、さまざまな教育の担い手、委員長の言葉でいうとアクターという言葉が何回か使われましたけれども、そういうそれぞれの教育の担い手が応分の責任をどういうふうに担っていくのかということが読み手に分かりやすく伝わるものを考えています。例えば商店主が、自分はこういう形で教育に携われれば、子育てや子どもの学びにもつながるし、あるいは自分の成長にもつながるし、それが今回つくっていったビジョンの共有する基本目標につながっていくんじゃないかとか、そのさまざまな担い手である区民がそれぞれの立場でこのでき上がっていくビジョンやイメージ図を見たときに、「ああ、こういうことなんだな」というのがわかっていくというのが、委員の皆さんが意見で共通して出された「区民の心に届くもの、理解しやすいもの」という一つの今度の新しい取り組みかなと思っておりますので、絵は幾つか、例えば事務局で今言ったとおり、そういうそれぞれの役割がわかるような絵があってもいいんじゃないかとか、あるいは、先ほどのように成長の軸を打っていったら、その辺がわかる絵もあっていいんじゃないか、あるいは、学んだことが地域に還元されて、再び循環していくという知の循環型社会みたいなものをわかりやすく示してみてもどうかとか、幾つかの切り口で、4つ、5つぐらい、実はたたき台を今考えています。ですので、そういったことを糸口にして、「それがいいね」とか、あるいは「それ以外にこういうものがあるといいね」とか、どんな考え方も結構ですので、先ほど委員長がおっしゃっていたとおり、例えば夢の中でひらめいたことなんかをちょっとメモしていただいて、言葉で伝えていただいても結構です。そのようなことでも結構でございますので、お寄せいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

○委員長 では、ひらめきを含めてアイデアの提供をよろしく願いいたします。

次回11月11日は、新教育ビジョンの素案について議論をしていき、ブラッシュアップ、ステップアップを図ってまいりたいと思います。予定の時間をやや早めに終わることができました。皆さん方のご協力のおかげです。ありがとうございました。

以上で本日、終了といたします。ありがとうございました。